

一 次の問いに答えなさい。

問1 — 線を漢字に直しなさい。ただし、送りがなの必要なものは、それもふくめて書きなさい。

- ① マイキヨにいとまがない。
② 慣れた手つきで機械をアヤツル。

問2 — 線の読みを、ひらがなで答えなさい。

- ① 直ちに集合してください。
② 養蚕が盛んな町に行く。

問3 次の慣用句・ことわざの意味として正しいものを、それぞれ後から選びなさい。

- ① お茶をにごす
ア 予想に反した行動に出ること
イ 正体をかくしておとなくすること
ウ うそをついて相手をだますこと
エ その場をとりつくろってごまかすこと

- ② 情けは人のためならず
ア 人に情けをかけるのは、その人のためにならない
イ 人に情けをかけておけば、自分に必ず良い報いがある
ウ 人に情けをかけては、自分がおろそかになってしまう
エ 人に情けをかけても、その人が良くなるとは限らない

問4 次の中から四つの漢字を使って、四字熟語を完成させなさい。
器 生 大 言 成 同 晩

問5 「雨ニモ負ケズ」という作品の作者を選びなさい。

- ア おおえけんざぶろう 大江健三郎
イ みやざわけんじ 宮沢賢治
ウ ふくざわゆきち 福沢諭吉
エ まつお ばしろう 松尾芭蕉

問6 太線は何画目ですか。漢数字で答えなさい。
飛

問7 反対の意味の語の組み合わせとして、ふさわしくないものを選びなさい。

- ア 解散—集合
イ 消費—生産
ウ 感覚—心情
エ 尊重—無視

ヒノキの葉っぱは、香り高いものです。この香りの殺菌効果はよく知られています。だから、昔から、この効果を期待して、食品の新鮮さを保つために利用されています。魚屋さんやお寿司屋さんの店頭では、生魚の下にヒノキの葉っぱが敷かれていることがあります。一昔前には、秋になると多くの店で、マツタケが大切そうにこの上に載せられて売られていました。

ヒノキは、葉っぱだけでなく、幹や枝の材も香りが高く、その香りのおかげで、この材は細菌や虫に強いのです。ですから、生ものを載せるため細菌の繁殖を防がねばならない「まな板」や、湿気が高く温かいので細菌が繁殖しやすいお風呂で使う「桶」や「椅子」などの木製品に使われています。

ヒノキの材は、虫に食べられたり腐食したりせずに、長持ちしなければならぬ建物や建具、高級なタンスなどの家具にも使われます。奈良の法隆寺は、世界最古の木造建築であり、築後一〇〇〇年を超えています。建築材料には、ヒノキが使われています。

ヒノキに含まれ、抗菌、殺菌作用をもつ「木の香り」と表現されるのは「ヒノキオール」です。昔からいわれる「ヒノキ油」の成分です。このような植物の葉や幹から放出される香りは、「フィトンチッド」とよばれます。「フィトン」とは「植物」という意味で、「チッド」は「殺すもの」という意味のロシア語です。

「フィトンチッド」は、植物たちがカビや病原菌を遠ざけたり退治したりするための香りです。「森林浴で浴びているのは、樹々の

葉っぱや幹から出ている、ほのかに感じる香りなのです」と紹介しました。香りはほのかでも、その作用はかなりすごいものです。ほのかな香りが、カビや病原菌を遠ざけたり退治したりするはたらきをするのです。

私たちは暮らしの中で、この香りはたらきを、防虫剤や防腐剤などに利用しています。たとえば、柏餅や桜餅、柿の葉寿司などは、植物の香りを利用して食べ物や物の保存をはかる例です。ササやタケの葉っぱは、チマキや笹団子、鱒寿司を包むのに使われます。昔は肉やおにぎりなどを包むのに、タケの皮が利用されていました。

近年は、肉やおにぎりを包むのに、タケの皮が使われることが少なくなりました。でも、鱒寿司を包むのには、今でも、タケの皮が使われます。これは、自然の素材で包むことにより、鱒寿司に高級感をもたせる効果があることも一因でしょう。

でも、それだけではありません。サバは傷みやすいのです。そのため、昔から、漁で陸揚げされて並んでいるサバが何匹かを数えるときには、時間をかけずに、パッパッパと数えてきました。その結果、数はいい加減になります。だから、いい加減な数をいうときには、「鯖を読む」という表現が使われるのです。そんな傷みやすいサバが腐るのを遅らせるために、タケの皮が使われているのです。

「植物の香りが、ほんとうにそんな効果をもつのだろうか」と疑問人もいるでしょう。その効果は、実験で確かめることができます。小さな容器に香りを発散する植物、たとえば、ヒノキの

葉っぱや、市販されている植物の香り物質などをいれます。そして、大きい容器に、カビの生えやすいお餅のような食べ物を入れ、準備した小さい容器もいっしょに入れて密封します。

I

フィトンチッドは、このように、カビや細菌を殺したり、繁殖を抑えたりします。それだけでなく、もつと強く、植物のタネの発芽を抑える効果も示します。密閉できる容器を二つ用意し、どちらにもレタスのタネとそれが発芽するように水を与えた小さな皿を入れます。③ いっぱいの容器内には、クスノキの葉っぱをすりつぶしたものを入れた皿を置きます。その後、二つの容器を密封し、光の当たる温かい場所に置いてください。

香りが容器の中のタネは、翌日には発芽し、成長をはじめます。ところが、クスノキの葉っぱをすりつぶしたものを置いた容器内のタネは、何日経っても発芽しません。クスノキの葉っぱの強い香りが、レタスのタネの発芽を抑えるのです。

クスノキの葉っぱは、防虫剤に使われる「シヨウノウ(樟脳)」という強い香りを含んでいます。木についている葉っぱはほとんど香りませんが、虫がかじって傷をつけると、その香りが発散してきます。虫を追い払うための香りです。だから、実験のときには、すりつぶしたり、細かく切り刻んだりしておきます。

サクラの葉っぱがまだ緑色をしている初秋に、ある質問を受けま

した。「数日間、雨が降り続いたあとの雨あがりの日、サクラ並木を自転車ですり抜けました。すると、桜餅の香りがほのかに漂ってきたように思います。⑤ 雨に濡れたサクラの葉っぱからは、桜餅の香りが漂うのでしょうか」というものでした。

桜餅の葉っぱからは、おいしいような甘い香りが漂い、食欲をそそります。これは「クマリン」という物質の香りです。でも、サクラの木に茂っている緑の葉っぱをもぎ取って香りを嗅いでも、桜餅の葉っぱの香りはしません。

サクラは、葉っぱが虫にかじられて傷つけられたときに、あの香りを発散させて、自分の葉っぱを守るのです。あの香りは、私たちにはおいしそうな気持ちのいい香りなのですが、虫には嫌がらせの香りなのです。そのため、葉っぱをもみくちゃに丸めて傷だらけの状態になると、虫にかじられたのと同じ状態になり、数分後にあの香りがほのかに漂ってきます。

傷がついていない緑の葉っぱには、クマリンができる前の物質が含まれています。この物質には、まだ香りはありません。葉っぱには、もう一つの物質が含まれています。それは、クマリンができる前の物質をクマリンに変えるはたらきがある物質です。

しかし、傷がつかずに生きている緑の葉っぱの中では、二つの物質は接触しないようになっています。だから、クマリンができることはなく、香りは発生しないのです。ところが、葉っぱが傷ついたり、葉っぱが死んだりすると、これらの二つの物質が出会って反

応じます。その結果、クマリンができて、香りが漂ってくるのです。

【A】、サクラの緑の葉っぱに数日間雨が当たっても、桜餅の香り、【B】、クマリンの香りが漂うことはありません。【C】、質問のように、なぜ雨あがりのサクラ並木で、桜餅の香りがしたのでしょうか。

原因は、桜並木のサクラの木の根もと付近にたまっている、サクラの古い落ち葉です。古い落ち葉は死んでしまっている^⑥ので、桜餅の香りがほのかにします。お天気が続いていると、落ち葉はカラカラに乾いて水気を含んでいません。そのため、香りはほとんどしません。数日間雨が降ると、たつぷりと水を吸った落ち葉から、桜餅の香りがかすかに漂ってきます。

これは、容易に確かめることが出来ます。雨あがりの日、サクラの木の間もと付近にある、水気をたつぷりと含んだサクラの古い落ち葉を一枚、そっと拾い上げて、香りを嗅いでください。桜餅の香りがほのかに漂ってきます。

多くの植物の葉っぱは、秋に枯れ落ちます。そんな光景を見ると、さびしい気持ちになり、葉っぱの命のはかなさを感じます。しかし、葉っぱはもの悲しくさびしい気持ちで生涯を終えるのではありません。

親株のまわりに落ち、枯れ葉や落ち葉になっても、虫に食べられて糞になって土を肥やしたり、微生物に分解されて土に帰り、「腐

葉土」の素材となります。腐葉土とは、文字通り、落ち葉が腐って肥やとなる土です。落ち葉は、土に帰り、若葉が育つ糧になるのです。

サクラの枯れ葉や落ち葉は、それだけではないのです。親株の根もと付近に落ち、虫の嫌がる香りを放ち、親を守っているようにです。腐葉土になるギリギリまで、香りを放っているのです。

⑧ 葉っぱの生き方の「すごさ」を感じずにはいられません。

〔植物はすごい〕 田中修

問1 I にあてはまる文を、次から選びなさい。

A 香りがいい場合、お餅にはすぐにカビが生えますが、香りがあると、カビはなかなか生えませんが、

I 香りがいい場合、お餅にはカビはなかなか生えませんが、香りがあると、すぐにカビが生えます。

ウ 香りがいい場合、お餅はおいしくなりますが、香りがある

と、なかなかそういきません。

問2 線①「その作用」の説明としてふさわしいものを、次から選びなさい。

A 森林の動物たちの気持ちをやさしくする作用

I カビや病原菌を遠ざけたり退治したりする作用

ウ 樹々の葉っぱや幹から出ているほのかな作用

エ 森林の中で暮らす小さな虫をひきつける作用

問3 線②「鯖寿司を包むのには、今でも、タケの皮が使われます」とありますが、何のためですか。その目的を二つ答えなさい。

問4 線③「クスノキの葉っぱをすりつぶしたもの」とありますが、なぜ実験時に、葉っぱをすりつぶす必要があるのか。四十字以内で答えなさい。

問5 線④「ショウノウ」の使い方としてふさわしいものを、次から選びなさい。

A 悪化しかけている傷口を治す

I 食事に混ぜて栄養のバランスをとる

ウ 衣服の虫食い予防としてたんすに入れる

エ 外出時に香水としてつける

問6 線⑤「雨に濡れたサクラの葉っぱからは、桜餅の香りが漂う」とありますが、その説明としてふさわしいものを、次から選びなさい。

A 桜の葉っぱには「クマリン」が含まれており、雨で濡れると発生するようにできている。そのため、桜餅のような香りが出ている。

I 葉っぱが落ち葉になると、二つの物質が反応して「クマリン」ができる。そして、乾いた状態でなく水分を含むと、より香りを出すようになる。

ウ 桜餅の香りの原因の「クマリン」は、葉っぱが踏みつけられないと香りを発しない。そのため、自転車で踏みつけると葉っぱが傷つき香りを発する。

エ 桜の葉っぱには、桜餅の香りを出す「クマリン」と「クマリン」をおさえる成分が含まれている。後者が雨で流されることにより、香りが発生する。

問7 「A」～「C」に入る言葉の組み合わせとしてふさわしいものを、次から選りなさい。

- ア A ところが B たとえば C では
イ A つまり B それゆえ C そして
ウ A さて B いわゆる C なぜなら
エ A ですから B すなわち C では

問8 —線⑥「カラカラ」と異なる性質の言葉を、次から選りなさい。

- ア 風車がクルクルと回る
イ かみなりがゴロゴロと鳴る
ウ トロトロに煮込まれたシチュー
エ 文章をスラスラと読む

問9 —線⑦「若葉が育つ糧」の説明としてふさわしいものを、次から選りなさい。

- ア 若葉を育てる支えとなるもの
イ 若葉が育つために死んでしまうもの
ウ 若葉が育つのに絶対必要なもの
エ 若葉の成長を遅らせるもの

問10 —線⑧「葉っぱの生き方の『すごさ』」とは、どのような点にありますか。三十字以内で説明しなさい。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

空を見上げると雲がどんどんどんどん流れていた。

気がついたら、来たことのない沢まで降りていた。さすがにちよつと不安になったので、もう一度上の方へ戻ろうと、斜面に足をかけたら、ずるずるとすべって上がれない。何度やってもちよつと焦った。そしたらそのとき、何かすごくきれいな色が――

まるで鉱物みたいな美しい色が目についた。それはまるでラピスラズリのように輝く、深い紺碧の色だった。けれど、あまりに細長く――まるでヘビの赤ん坊のように見えた。とにかく、今までに見たことのない生物だった。ぞくぞくとした。

そのとき、いかにもたまたま、という調子で、「やあ、コペルじゃないか」って声が上がってきた。父さんだった。「こんなところで何してるんだ」

僕はすぐに、父さんが僕を探しに来てくれたんだって分かったけど、それは、僕にとっては複雑な気分のものであった。まるで小さい子みたいに迷子を心配されている！という……。でも実を言えば心底ホッとした気持ちも確かにあった。ちよつと永久にその場所から上へ上がれないんじゃないか、って気がしてたんだ。そのホッとした気持ちが大きいだけに、それを見透かされてたまるかという変な見栄も同時に働いて、「ザリガニ探しに来たんだけど」と素っ気なく返した。

父さんは、そうか、と言って降りてきた。「父さんこそ、何してるの？」と、僕は努めて普通を装って訊いた。「父さんも、いろいろ

る探しに」と、向こうもごく普通に答えた。僕は、ふーんと受け流し、それから、お、そうだそうだ、「見てこれ」と、ラピスラズリ・ヘビを指した。すると父さんは、「お、シーボルト・ミミズじゃないか」と、僕を見つけたより遙かにうれしそうに叫んだ。「ミミズ？ シーボルトが発見したの？」「そうなんじゃないかな。そんな名前が付いてるから。でも、高知辺りではカンタロウっていうらしいよ。それがシーボルトが見つけた頃より古くからついていた名前なんだたら、そっちのほうが日本産らしくていいよな」

でも、ミミズだったなんて。ミミズにしてはすごく馬鹿でかい。五十センチくらいあったんじゃないかな。太さだって、僕の中指ほどはあったと思う。けど、本当にラピスラズリのように艶があつて輝いていて、なんともいえないミステリアスな雰囲気があつた。見る間に、枯葉の間に潜って行ってしまったけど。「なんだ、ミミズだったのかあ」僕が残念そうに言うと、「ミミズってすごいんだよ。コペル、もう少し大きくなったら、ダーウィンの『ミミズと土』っていう本を読んだらいいよ」と勧めた。「ダーウィンって、進化論の人だろ」って僕は嬉しそうに齧りかけの知識を披露しながら訊いたものだ。「そう。でも、彼のミミズ研究はそれに優るとも劣らないよ」父さんは力だめて言った（ようし、帰ったらすぐ読んでやる――そう思って、数日後家に帰ったとき、本棚からその本探してはみたけど、さすがにその頃の僕にはまだまだ無理だった。実を言うと、まだ読んでない）。「で、ザリガニは見つかったのかい」

「……いや」「そうか」そう言うと、父さんは肩にかけていた手提げ袋から、シャベルと篩ふるいみたいなものを取り出し、シーボルト・ミミズが去っていった辺りの土から、丹念たんねんに一掬ひとすくい選えって、篩ふるいにかけた。「……どうかな」

僕は何が始まるんだろうと、じつと父さんの手元を見つめていた。すると、父さんは、「ほら」と言っで、僕の掌てのひらに、砂のかけらのようなものを載のせた。そして、虫メガネを渡して、「見てごらん」と言っで。それは、なんと、透き通るように白い、精巧な巻貝せいかうだったんだ。大きさは、五ミリにも満たなかっただろう。その繊細せんさいさに、すっかり見とれた。「すっげえミニチュア判の貝だ。なんでこんなところに？」「それはゴマガイ。リクガイの仲間だよ。土の中に住んでるんだ。でも、環境汚染かんきょうおせんが進んだところには生きていけないから、それがいるということは、この自然が豊かだっていう証拠しやうこなんだよ」そう説明しながらも、父さんは、土を取って篩ふるいにかける動作をやめなかった。そして、「やあ、やと出てきた」そう嬉しそうに言っで、僕の掌てのひらに、ダニみたいな赤っぽいものを載せた。「見てごらん」何だか得意そうだった。恐る恐る虫メガネで見ると、なんと、これもまたミニチュア判、ゴマガイと同じくらいの大さきの、ザリガニだったんだ。いや正確に言うと、ザリガニにそっくりのハサミを持った、別の生物なんだけど。「うそだろ」「カニムシの仲間。小さくてもちゃんとハサミを持っているところがいよいよな。後ずさりの仕方しやうほうも、ザリガニそっくりだろう。自然って本

当、面白いな。思っでたのよりはちょっと小さいだろうけど、まあ、今日のところはこれでよしとしようじゃないか。母さん、コペルが海に行ったんじゃなかった心配してたし」

帰り道、父さんは土壌動物どじやうどうぶつがいかに土を豊かにしているか、獣の死骸しかいや落ち葉を解体して森をきれいにまた生命力にあふれたものにしてくれているか、話してくれた。その話はばくにはすぐ何と云うか、惹きつけられるものだった。あの宝石のようなシーボルト・ミミズが効いたのかもしれないけれど。

それから、密ひそかに僕も、自分の家の近くの土を、篩ふるいにかけて調べ始めたんだ。カニムシはもちろんのこと、ほかにもまるでガーネットの粒つぶみたいなダニの仲間とか、生態も格好もミステリアスなジグモだとかザトウムシとか見つけて、すぐに夢中になった。でも、この数年で、見つかる種類は明らかに少なくなっでいった。最初の頃よく見かけたリクガイの仲間も、今ではすぐ珍しくなっでしまっでた。

父さんは、土壌動物がその環境汚染の指標しひょうみたいに言っでたけど、何かが、明らかに変わっでいてる。何かしなくちゃいけないんじゃないかって、居ても立ってもいられなくなっでた。でも、とりあえず今僕に出来ることは、こうやっで定期的に調べていくこと。それが、いつか何かを、大きく言え、すぐ大事なものを、守ることに④（それが直接にではないにしろ）繋つながっでいくんじゃないか、っで気がした。誰にも知られず黙々もくもくと調査を続けてい

る、っでのも、ちよつと、まあ、気に入っでるし。でも、こんなこと、こつぱずかしくっで、人前ひとまへで言えるような話じゃない。それに、父さんから教えられたっでのも、なんか、なあ……。

というよなことを、あちこち（もちろん最後の個人的感慨かんがいなんかも）はしりつ、彼らに話した。大盤振る舞おおばんふるまひいだ。「ふうん、なるほど」

ノボちゃん①は、面白そうに頷うなづきながらそう言っでた。いや感心感心、なんて言われたら、間髪かんはを容れず、*ブラキ氏はらきしみたいに吠ほえてやる、と構かまえつ、やっぱ、言わなきゃよかったかな、と後悔こうかいしてたら、

「コペルらしいよ。それでいつもその調査場所さつさばしよは植物公園しょくぶつこうえんだったのか」

と、ユージンが訊きいた。
「うん、でも、もうあんまり結果が寂さみしいんで、ちよつと他のところもやっでみようか、っで思っでたことだったんだ」

そう、だから今朝、ユージンの家の庭に行くことになったとき、最初⑥はそのことも期待してきたんだ。でも、ここが、一般的な「土地」として見なされるのかどうか、そして、もしこれから定期的に調査していつ、だんだん……悲観的な結果が出るように、もしも、なつたとしたら……。

「やろう、それ、今から」

ユージンが、有無を言わさぬ勢いでそう言っでた。正午を過ぎた太陽が、南西向きのこの部屋にぐるりと回っできて、その光がテーブ

ルの上にまで射し込んでいた。

ユージンがそう言っでたとき、僕は自分でも意外なほど、実は嬉しかった。「悲観的な結果」が出たとしても、一人⑦で愕然とするよりは、友達と愕然とする方が、まだましだっで気がした。

けれど、こんなこと、以前は考えもしなかつた。友達とやろうが、一人でやろうが、結局同じ結果が出るんだっでたら関係ない、っで思っでたんだ。密かにやることに意味があるっで思っでたしね。それが「嬉しい」だなんて。正直、僕はちよつと戸惑とまどっている。なぜだろう。

何となく思っでたんだけど、目的が土壌動物調査だけだつたら、それを達成するためにどんな方法を使おうが関係ないんだけど、友達とやるっでなつたときには、そこに土壌動物調査だけでない何かが付いてくるからじゃないだろうか。

それっで何だろう。その何か付いてくるものつて。

それには確かに心地良さみたいなものがある。だから「嬉しい」んだ、きつと。でもその心地良さに慣れちゃつたら、何か、違っでて、気がしてたんだな。真正面からそのことについて考えてみたことなんかなかつたけど。

（僕は、そして僕たちはどう生きるか）梨木香歩

*披歴……打ち明けること

*ブラキ氏……犬の名前

*愕然……ひどく驚くさま

問1 — 線①「複雑な気分」とありますが、その説明としてふさわしいものを、次から選びなさい。

ア 父が探しに来てくれたという安心感と、子どもあつかいしてほしくないという気持ち

イ 父が助けに来てくれたという安心感と、本当に沢から上られるのかという不安な気持ち

ウ 父が迎えに来てくれたという安心感と、もっと早く見つけてほしかったという怒りの気持ち

エ 父の声を聞いて感じた安心感と、父の心配した表情に申し訳ないと思う気持ち

問2 — 線②「努めて普通を装って訊いた」とありますが、なぜ「普通を装つた」のですか。その理由を文中の語句を用いて答えなさい。

問3 — 線③「密かに僕も、自分の家の近くの土を、篩にかけて調べ始めたんだ」とありますが、なぜ「密かに」調べたのですか。その理由としてふさわしいものを、次から選びなさい。

ア 自分が誰にも知られず黙々と一人で研究することも嫌いはなかったうえに、調査の成果を自慢していつか父を驚かせようと考えていたから

イ 何か新しい発見があるのではないかという予測がある程度ついていて、ダーウィンに憧れて一人で調査することに居心地の良さを感じていたから

ウ 友達と一緒にやることにあまり意味がないと思っていて、シーボルト・ミミズを一人で見つけたときの感動をまた味わいたいと考えていたから

エ 父に教えられたことを素直に楽しんでいる自分を他人に知られるのが恥ずかしく、黙々と一人で調査を続けることに意味があると思っていたから

問4 — 線④「少なくなっていく」とありますが、ここからわかることを、次から選びなさい。

ア 森が再び生命力を取りもどしたこと

イ 僕が土壌動物を採りつくしたこと

ウ 家の近くの環境汚染が進んだこと

エ 植物公園が調査に向いていないこと

問5 — 線⑤「すごく大事なもの」とは、何を指していますか。文中から漢字二字で書きぬきなさい。

問6 — 線⑥「そのこと」が指す内容を、答えなさい。

問7 — 線⑦「有無を言わさぬ」とはどのような様子ですか、次から選びなさい。

ア えらそうな様子 イ 申し訳なさそうな様子

ウ 急いでいる様子 エ 反論させない様子

問8 — 線⑧「何か」の説明としてふさわしいものを、次から選びなさい。

ア 自分が夢中になっていることに友達が理解を示してくれたとまどい

イ だまっけていても自分を応援してくれる友達がいることの心強さ

ウ 自分が長い間続けた研究が友達を感じさせたことへのほこらしさ

エ 友達と協力して一つのことに打ちこんで感動を共有するよろこび

問9 本文の登場人物の説明としてふさわしいものを、次から選びなさい。

ア ノボちゃんは土壌動物調査の話を熱心に聞いて、悲観的になりかけていた僕をばげましてくれた

イ ユージンは僕が植物公園で調査を続けることに限界を感じていたことを知り、手伝いをかって出してくれた

ウ 父さんはコペルが迷子になったことよりも、地球環境の未来の方を心配している

エ コペルは閉じていた心を友人たちの協力で再び開きつつあり、自分でも戸惑いを感じている

問10 本文に関することとしてふさわしいものを、次から選びなさい。

ア 「僕」が読者に語りかけるような表現を多く用いて、読者が作品世界に入り込みやすくなっている

イ 「僕」と「父さん」の心情をくわしく表現することで、思春期特有の家族との関わり方をリアルに描いている

ウ 「僕」の心情表現に景色を細かく書き入れることで、様々な心情の変化をさりげなく表現している

エ 友達との共同作業によって信頼関係が生まれることを、同世代同士の会話を多用しながら示している

平成二十八年 度 中 学 校 入 学 試 験 (第 一 回) 国 語 解 答 用 紙

一

問 1	①
	②

問 2	①
ち	②

問 3	①
	②

問 4

問 5

問 6
画目

問 7

二

問 1

問 2

問 3

問 4	
25	5
30	10
35	15
40	20

問 5

問 6

問 7

問 8

問 9

問 10	
20	5
25	10
30	15

三

問 1

問 2

問 3

問 4

問 5

問 6

問 7

問 8

問 9

問 10

受 験 番 号

氏 名	ふりがな

得 点
※

※には記入してはいけません。